

午後Ⅰ試験

問1

問1では、DevOpsを適用したシステム開発・運用の監査を題材に、DevOpsの特性、メリット・デメリットを理解した上で、これらを効果的に活用するためのコントロールや監査手続について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1は、(i)、(ii)が平均的で、(iii)は正答率がやや高かった。DevOps環境では適用が難しい場合がある職務の分離などのコントロールを、CI/CD ツールの設定によるコントロールによって代替し、リスクを低減する必要があることを理解してほしい。

設問2は、正答率がやや低かった。DevOps環境では、テストデータやシナリオを事前に設定しておくことによって本番リリースまでのステージを自動化することができるが、システムの使いやすさなど利用者の立場から判断する必要があるテストを自動化する場合には、リスクがあることを理解してほしい。

設問3は、正答率は平均的であった。本設問は、DevOpsやアジャイル開発で陥りがちな開発上の課題を問う問題であったが、コーディングルールなどの標準を作成するだけでなく、それを浸透させる取組がリスクの低減につながることを、システム監査人として着目するようにしてほしい。

問2

問2では、基幹システムの信頼性及び安全性に関する統制の整備状況・運用状況の監査を題材に、監査調書に基づいて指摘及び改善提案が行えるような監査報告書の作成について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1は、正答率がやや低かった。本設問はシステム監査報告書の監査目的に照らして総合評価の記載が十分であるかどうかを問う問題であったが、監査目的に記載のないITコスト低減の有効性について記述している解答が散見された。システム監査報告書の総合評価には、監査目的に対応する評価結果を漏れなく明瞭に記載する必要があることを理解してほしい。

設問3は、正答率が低かった。統制の運用状況の評価において、サンプリングによる検証を行う際の母集団の網羅性に関する監査手続を問う問題であったが、サンプリングの手法や件数に焦点を当てた解答が散見された。システム変更に関する運用状況の検証としては、システム変更ログを母集団とすることが望ましく、システム変更申請書からサンプリングする場合には、その前提としてシステム変更申請書に漏れないことを変更ログによって確認する必要があることを理解してほしい。また、監査を実施する際の正確性、網羅性、実在性などの意味についても正確に理解してほしい。

問3

問3では、ITサービス管理システムの監査を題材に、システムの導入と運用に関するリスク、監査の観点及び監査手続について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問3は、正答率が平均的であった。マスター更新に伴うリスクへの対処を基本知識として学んでおくとともに、マスター更新の背景となっている業務リスクへの対処も視野に入れてコントロールを捉えてほしい。

設問4は、正答率がやや低かった。エラーが処理されなければ、その分のサービス請求明細が作成されず、利用料の請求に漏れが生じるという、業務上の原因と影響を把握して、簡潔に表現できるように努めてほしい。

設問5は、正答率がやや低かった。リスクへの対処を確認する監査手続では、どのような主題について、どのような監査技法を選択、適用し、どのような監査証拠によって確認するかを示す必要があることを理解してほしい。

設問6は、正答率が平均的であった。リードタイムの目標が利用者にも明確になっているという状態を達成する前提として、サービスカタログの内容確認から、サービス申請の画面入力といった業務の流れを理解してほしい。